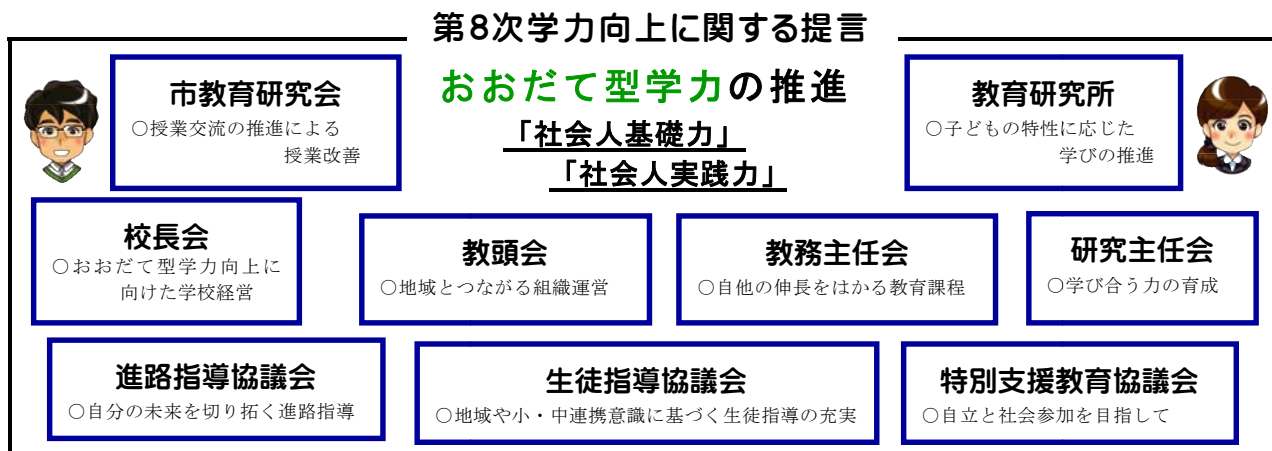


4月に「第8次学力向上に関する提言」として、ふるさとキャリア教育の理念のもと、全教育活動を通して「大館を支える人財育成」を目指す方向性を示しました。その中で、「おおだて型学力」、「社会人基礎力」「社会人実践力」というキーワードがありますが、それは全く新しい方向性ではなく、ふるさとキャリア教育と学力を結び付け、真に自立できる気概と能力を身に付けた子どもたちを育てようとするものです。第7次提言までの「確かな学力」「確かな授業力」は大きな成果となり、子どもたちの将来を支える土台となっています。その土台に、第8次提言では大館市民として、ふるさとを支え、担うためには、どんな力を積み重ねていけばいいのか、下記の各専門組織でテーマを設け研究実践します。各学校においても、自校の課題を明確にした具体的な研究実践がなされるようお願いします。

◆「教科学習推進委員会」は『おおだて型学力推進委員会』へと進化しました！◆

「南高北低」と言われていた秋田県内の学力。平成2年から、当時の諸先輩方が「学力向上対策」として設置したのが「教科学習推進委員会」です。これまで、3か年ごとの提言を具現化するため評価・改善しながら、歩みを進めてきました。

今年度からは、全教育活動を通して実践するふるさとキャリア教育をさらに進化させ、おおだて型学力を推進するため3協議会（進路指導・生徒指導・特別支援教育）との連携も欠かせないものと考え、組織を拡大しました。



※ 一部、表現の変更があります。「第8次提言」のP3協議会の空欄部分等に加除訂正ください。

◆教科学習推進委員会だより「こころみ」を「SHI・N・KA」へリニューアルしました！◆

第1回おおだて型学力推進委員会の開催時に、高橋教育長が挨拶の中で、ダーウィンの「強いものが生き残るのではない。変化できるものが生き残る」という言葉を引用し、大館市の教育も現在のままで満足するのではなく、子どもたちに身に付けさせたい力は何かを深く探り、おおだて型学力として深化させていこうと話しました。「シンカ」には、様々な漢字、意味が当てはまるのではないかと思います。この紙面を通して、私たちの教育実践が深化することを願い、各専門組織や各校の試み、提案、実践、そして成果を紹介していきます。お忙しい日々とは思いますが、目を通してくださるようお願いします。

◆教育研究所では、学校訪問を通して「社会人(大館市民)基礎力」3つの力を
鍛える授業として次の視点を設けています！◆

○前に踏み出す力(アクション)～一歩踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力

→主体的に学ぶ授業

- ・ねらいやゴールが明確で、見通しと目的をもって学習に取り組めるようになっているか。
- ・終末の時間を確保し、学習したことを生かして習熟を図ったり、次時や生活へ意欲をつなげたりしているか。

○考え抜く力(シンキング)～課題をもち、考え抜く力

→思考力、判断力、表現力等を磨く授業

- ・児童生徒が自ら課題を見つけ、それを解決しようとする学習過程になっているか。
- ・児童生徒の特性に応じて、じっくりと考える時間や支援・手立てを保障しているか。

○チームで働く力(チームワーク)～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力

→集団で学び合う授業

- ・児童生徒の発言をつなげ、教師と児童生徒、児童生徒同士の集団の学び合いになっているか。
- ・ペアやグループ学習、全体による学習活動は、互いを尊重しながら学ぶ人間関係になっているか。

参考資料

小学校は全県平均並み、そして中学校には大きな伸びが見られました。生徒質問紙からも、中学校は「基本的な生活習慣(早寝の習慣化、ゲーム・スマホの使用時間の短縮)」、「自己肯定感の高まり」、「仲間との共感的な人間関係のよさ」、「先生に認められている安心感」、「授業がよく分かる」、「新聞やニュースを見ている」等多くの項目で全県平均を上回り、生徒たちの前向きな姿がテストの数値上にも質問紙の意識からも(もちろん訪問での様子からも)うかがうことができます。

※ 「第8次提言」のP12に付け足してください。

